

様式1

令和7年度指定管理者モニタリング評価表

施 設 名	コスモアイル羽咋	所在地	羽咋市鶴多町免田25番地
指 定 管 理 者	有限会社 プロジェクトドゥ		
住 所	羽咋市中央町フ162番地	選定方法	公募
指 定 期 間	令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日		
指 定 管 理 料	49,500千円（令和7年度決算額）		
評 価 担 当 課	生涯学習課		
年 度 重 点 目 標	文化・芸術・産業の交流を推進し、広域的な地域間交流の拠点施設として、また、生涯学習の向上を図ることを目的とした施設であることを認識し、安全安心の確保を前提に質の高いサービスの提供と、エコ活動を推進し経費の削減に沿った管理運営を行う。		

評価項目		評価する内容の詳細	評 価		確認方法	備 考
			中間	年間		
1	職員配置などの実施体制	仕様書・事業計画書どおりの人員配置がなされているか。	A	A	聞き取り書類	人員配置計画書にて確認、名簿を受理 館長1人、社員3人、パート6人、アルバイト若干名
		事業計画書に則した職員研修が実施されているか。	A	A	聞き取り書類	定期的に研修を実施及び受講 施設内で危機管理研修を行い、外部の研修受講を行った。
		指定管理業務の全部、又は主たる業務を再委託していないか。(届出済みの業務委託部分は除く)	A	A	聞き取り書類	再委託契約書にて確認
2	施設、設備及び備品の維持管理の状況	仕様書等に基づき適正に維持管理業務が実施されているか。	A	A	書類	仕様書・事業計画書等にて確認
		整理整頓・清掃がなされており、植栽等についても美観を損なっていないか。	A	A	現地	現地確認、問題なし
		法定保守点検について、点検内容、時期等が法令基準に基づき実施されているか。	A	A	書類	書類等確認(保守点検報告書等)
		保守点検において、異常が認められていた場合、また、修繕が必要な箇所が見つかった場合、適切な処置が実施されたか。	A	A	聞き取り書類	報告書を受付、随時修繕を実施
		備品等に過不足がなく、適正に管理されているか。	A	A	書類	備品台帳を確認、適正に管理されている
3	サービス向上への取組状況 (アンケート調査による意見及び対応は項目9に)	ホームページなどで積極的に情報提供が行われているか。	A	A	聞き取り HP確認	ホームページの随時更新。(ホームページ確認)SNSでの情報発信。
		特定の利用者を優遇したり、法令に基づく手続を経ることなく、利用を制限している事例はないか。	A	A	聞き取り	事例なし
		利用者に対して満足度について調査(アンケート・意見箱の設置等)を行ったか。	A	A	書類	アンケート確認
		苦情・トラブルに対し、適切・迅速に対応しているか。	A	A	聞き取り 書類	主だった苦情なし アンケートの意見に対応
4	防犯・防災対策の取組状況	緊急時の連絡体制は整っているか。避難訓練等は実施されているか。	A	A	聞き取り	訓練 年2回実施(5月、12月)
		リスクに応じた保険等に参加しているか。	A	A	聞き取り	総合賠償責任保険に参加している

評価項目		評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考
			中間	年間		
5	個人情報保護の措置状況	個人情報は適正に管理されているか。	A	A	聞き取り	3年を目途にシュレッダーで廃棄している
6	経理の執行管理状況	団体のその他の事業との区分を明確にし、適正に経理処理が実施されているか。	A	A	聞き取り書類	月次報告書で確認している
		収支計画書と大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因は何か。	A	B	報告書	収支状況の報告書で確認 R6年▲9,639,085円 R7年▲6,493,019円 事業計画と比較すると主に人件費と福利厚生費の増加によるもの(最低賃金の改正によるパート代の増加分)。 パートの勤務時間の短縮や経費節減を行い予算を確保する。 地震の影響もあり、2期連続赤字のため経営に不安があるが、現在は例年並みに戻りつつある。 また、県の「今行ける能登」のキャンペーンで7月末まで予約が急増している。 R6年▲9,639千円/68,225千円＝▲14.1%(赤字) R7年▲6,493千円/85,369千円＝▲7.6%(赤字) 収支評価は、Bとする。(黒字から5%未満の赤字でA判定。5%～15%以内の赤字ならB、それ以上をCおよびD判定)
		料金等の収入が適正に得られているか。著しい増減がある場合は、その原因は何か。	A	S	報告書	収支状況の報告書で確認 事業計画(予算書)との比較 貸館5,400千円に対し6,779千円(前年4,673千円) 有料15,000千円に対し20,135千円(前年12,878千円) 有料にシアターは含めず 達成率26,914千円/20,400千円＝131.9% 実績数による3ヶ年平均に対する評価は、119.26%(前年比率137.74%)110%超の為S評価
7	施設利用状況	施設の利用が十分に行われているか。利用者数、施設稼働率等に著しい増減がある場合は、その原因は何か。	A	S	書類	利用状況報告書で確認 事業計画書(利用者目標)との比較 貸館目標34,000人に対し31,219人(前年25,734人) 有料目標52,000人に対し46,832人(前年30,378人) 達成率78,051人/86,000人＝90.7% 実績数による3ヶ年平均に対する評価は、119.19%(前年比率150.71%)110%超の為S評価
8	市への報告体制の確保	月例報告・実績報告・その他必要な報告が適切に提出されているか。	A	A	書類	毎月、報告書が提出されている
9	アンケート調査意見及び対応	【貸館施設利用者アンケート調査】返信用封筒を同封して返信してもらう方法を取っている。 【有料施設利用者アンケート調査】2階の展示室に設置している。 ・貸館対応については、職員対応で不満の回答はなく、親切な対応であったとの評価があるが、機材に関しては更新希望の声が見られたので検討する必要がある。 ・来館のきっかけは口コミが多く、今後もリピーターを増やすためにもSNSで発信を続けていく。 ・ユーチューブによるショート動画の反響が良い。 ・アンケートに記入してくださる方は概ね好意的な意見が多いが、アンケートにないお客様の意見を取り入れる方法を考える必要がある。				
10	今後、検討・調整が必要な事項	・開館以来更新できていない機器や設備について計画的に修繕、更新工事を進めるよう協議する。 ・小ホールにWiFiを整備してはいるが、他の場所にもWiFi等通信環境が必要なので令和8年度に設置する。 ・SNSでのより積極的な発信や新たな自主事業展開により集客に力を入れていく必要がある。 ・令和8年3月から団体旅行キャンペーン「今行ける能登」が始まり、バスの観光が増えたが令和8年7月末までの、継続できるよう企画を行う。				
11	今後の管理方針	・老朽化に伴う修繕は長寿命化計画に基づき、予防更新することで経費削減を図る。 ・羽咋市の観光拠点施設として、メディアや雑誌社など宣伝を行い、利用者増加に繋げる。 ・宇宙科学展示室は初来館者には新鮮であるが、開館当初からの展示品が更新されておらず、施設の魅力を維持向上していくために新たな見せ方や更新可能なビデオコンテンツ等の情報を随時更新していく。				
総合評価		中間評価	年間評価		令和6年度	令和5年度
		A	A		A	A

【別紙1】指定管理者制度施設の利用者数及び収入額について

【注意点】

1. 各施設ごとに記入してください。
2. 差引増減数及び増減額が大きい場合は理由を記入してください。
3. 表が足りない場合は、表又はシートをコピーしてください。

【所管課】 生涯学習課

【施設名】

コスモアイル羽咋【貸館施設】

1. 利用者について

(単位:人)

	今年度 利用者数	前年度 利用者数	差引	増減率
上半期(4月～9月)	13,740	15,820	-2,080	-13.1%
下半期(10月～3月)	17,479	9,914	7,565	76.3%
計	31,219	25,734	5,485	21.3%
差引増減数が大きい理由(増減率±10%以上の場合記入)	上半期については、昨年はコスモアイル羽咋で行われていた羽咋以北の研修会等が、本年度は元の会場などに戻ったため、昨年度よりも利用が減少した。下半期は森口博子さんや山本譲二さんのコンサート、羽咋高校の卒業式、ふるさとCM大賞の収録などが行われた。昨年度は冬期間に休館していた影響もあり、本年度は利用者数が大きく伸びた。			

2. 使用料又は利用料について

(単位:千円)

	今年度 使用料又は利用料	前年度 使用料又は利用料	差引	増減率
上半期(4月～9月)	3,379	2,722	657	24.1%
下半期(10月～3月)	3,400	1,951	1,449	74.3%
計	6,779	4,673	2,106	45.1%
差引増減数が大きい理由(増減率±10%以上の場合記入)	4月、5月の利用は好調。これは、例年年度末に行われていた事業が4月にずれ込んだことや県議会議員の補欠選挙などの利用があったため。下半期については、昨年度は冬期間の休館による減収分があったが、本年度は例年並みの収入を確保した。大ホール利用件数は増加したものの、市の事業であったため、減免規定により実際の収入には結びつかなかった。			

【施設名】

コスモアイル羽咋【有料施設】

1. 利用者について

(単位:人)

	今年度 利用者数	前年度 利用者数	差引	増減率
上半期(4月～9月)	28,237	21,052	7,185	34.1%
下半期(10月～3月)	18,595	9,326	9,269	99.4%
計	46,832	30,378	16,454	54.2%
差引増減数が大きい理由(増減率±10%以上の場合記入)	能登半島地震の影響による利用者数の減少も、現在は回復傾向にある。団体客の予約が徐々に再開しているほか、和倉温泉方面への旅行者は減少したものの、金沢方面からの個人観光客が増加している。下半期については、昨年度の冬期間休館による減収があったが、本年度は例年並みの収入を確保した。令和8年3月から団体旅行キャンペーン「今行ける能登」の効果により、バスツアーによる観光客が大幅に増加した。			

2. 使用料又は利用料について

(単位:千円)

	今年度 使用料又は利用料	前年度 使用料又は利用料	差引	増減率
上半期(4月～9月)	12,347	8,945	3,402	38.0%
下半期(10月～3月)	7,789	3,933	3,856	98.0%
計	20,136	12,878	7,258	56.4%
差引増減数が大きい理由(増減率±10%以上の場合記入)	能登半島地震の影響による利用者数の減少も、現在は回復傾向にあります。団体客の予約が徐々に再開しているほか、和倉温泉方面への旅行者は減少したものの、金沢方面からの個人観光客が増加している。下半期については、昨年度の冬期間休館による減収があったが、本年度は例年並みの収入を確保した。令和8年3月から団体旅行キャンペーン「今行ける能登」の効果により、バスツアーによる収益が大幅に増加した。			